

続・ふるさと

お姫様をかくまう岡田家

第9回

戊辰戦争中の慶応4年（1868年）、各地で旧幕府軍と官軍とが戦っていたときのことである。

東水沼村を治めていた下総の結城藩、藩主水野勝知は旧幕府派となり、家臣のうち勤王派は前藩主の水野勝進とその子勝寛を擁立し、藩内が二

つに分かれていた。

勝知は江戸住まいであつたが、その藩主が居城結城城を攻撃してきた。藩主が自分の城を攻めるなど前代未聞のことである。城にいた水野勝寛は江戸に、前藩主水野勝進は上総へと逃れた。勝進の若姫二人は結城

から脱け出し、芳賀郡の結城藩領へと逃れてきた。

3月27日に姫君は大沼村（真岡市）に滞在し、29日に東水沼の岡田家に一泊している。岡田家の当主八兵衛は若姫の慎ましやかな態度にたいして、「姫君やつぼみ開くも時世哉」という俳句を詠み、時代に翻弄（ほんろう）されている若姫たちに深い同情の念を寄せた。

翌30日に帰城命令が出たためか、若姫二人は鬼怒川の鑛山河岸（船着き場）から乗船し、結城へと戻っていった。

結城藩は官軍の進軍により勤王派の勝進・勝寛が最後は結城城に入城し、明治を迎える。



▶ 岡田家の記録「慶応年中乱軍記」に記された俳句
▼ お姫さまが使ったお膳



Anas falcata (全長48cm)



中型の淡水ガモ（水面採餌型）で、雄の頭部は大きくナポレオンの帽子をかぶったような状態をしている。頭と顔は紅紫色で目から後頭部にかけては緑色の光沢のある黒色であり、喉から胸にかけては白く、黒い首輪状の帯線がある。胸から腹にかけて白地に黒い三日月斑がありだんだんに細くなる。

おしりに白黄色の部分がかールした尾羽の下で黄色いパンツをはいたように見られお洒落なカモと感じられる。

飛来する数は少なく数羽であり、他のカモの中でヨシガモだけの群れでいるので発見しやすい。雌雄とも嘴は黒く、特に雌は他のカモとの種別判断には嘴の色は参考になる。

編集後記

□ 今年には台風や地震による災害が多い年でした。人間が予測できない出来事が、わたしたちの生活に大きな変化をもたらしました。

□ 日常わたしたちは予測できない事柄に囲まれて生きていますが、普段はあまり意識していません。例えば、自分の寿命や受験生の合否、来年のレタスの値段は判らないのですが毎日暮らしています。

□ 予測できないものを受け入れて毎日元気に生きていると自分は孤独ではないという事が判ります。

□ 組織の説明やら責任やらが飛び交う中で、かわりというものを深く考えることが多い今年です。（まんじゅう）

■ 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■ 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■ 芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>
■ 苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

